

エッセイ

今年のJCDA合唱の祭典2019～第20回北とびあ合唱フェスティバル～に講師としてお招きする秦万里子さん、林望さんより、音楽との出会い・合唱への思いなどについて、文章をお寄せいただきました。

私と音楽とCha-Cha

音楽家 秦 万里子

我が家の裏にピアノの先生が住んでいた。これが私の運命を決めた。ほぼ60年前おけいこ開始。

しばらく経つと「そこ、違っている」と言われるのが嫌になり（笑）作曲を始める。これなら間違っているとかわれない、いい手を考えたものだ。でも先生はその上をいった。絶対に役に立つから、とこれでもか！！の宿題。感謝感謝。

それでも決められたものよりも移調や変奏するのが好き、新しいハーモニーを考えるのが好き。小学校の校歌に勝手に声部を作って小さな声で歌っていた。モンキーズからバート・バカラックまで、洋楽の耳コピに夢中だった私は、ひょんな事と、勘違いから音大のピアノ科受験。入学後クラシックしか勉強しないとわかる。あっちゃ～。だから在籍時からその足りない音楽的欲求を満たすために様々な仕事をすることになる。スタジオに出入りをし、作曲家の鞆持ち、そしてコーラスの伴奏。

無知とはおそろしい。ああ、伴奏ね～～なんて



軽く思っていたものだから、あの真っ黒けのピアノ譜には恐れ慄いた。（この通りに弾くの？よね。。）ジャンと深く和音を鳴らした時の倍音を聞くのが何より好き。二分音符好き！！『IV major7 かっこいい』だからコーラス伴奏は私にとっては新ジャンル。不穏な和音に乗っかる難解な歌詞。指揮者の先生に散々お世話になり、団員の方々にも助けられた。ある日ふと気付いた。あれ？全員が楽譜を読めているわけではない？手にしているけど読めてる？



あれれ？楽譜を使用しなかったらどうなる？小さな炎がポッと灯った。

時が流れること数十年、歌う集団は2人から始まり、身近な題材でメンバーは「私のこと？」と思っ
ては歌う、泣く、笑う。なんでもない日常が題材のオリジナルソングで歌う、泣く、笑う。今では12
団体。月1、月2、月4と様々。レッスンでお教
えているのは「こんな音楽の楽しみ方があってもいい
じゃないか」である。声部の増減、ベターな方法
が見つければ歌詞や調の変更も辞さない。何でも
ありなのは、正解がない進化形だから。ピアノの伴
奏、前奏、後奏も決めていない。よく聴いていれ
ば「いまだ！」がわかるはず。会話だもの。このフ
レーズが来たら歌い始める！なんてことはないので

す。その分聞き耳をたてる。前奏で私が何を言おう
としているか感じて～～～！！というレッスン。
我々は明日に変化していく音楽を担当？している
（なんちゃって）。そして記憶の保管場所は歌詞カ
ードとレコーダーと脳。振りもあるから脳の活性化に
役に立っているらしい。そして最近このやり方を
Cha-Chaと呼ぶことにした。歌もシンガーズ自身も
Challenge（チャレンジ）してChange（チェンジ）
していくから。『こんなところで私が歌うなん
て、、、』専門家ではない人々が国内外で経験を積み
人生の「Chance（チャンス）」を広げていく。声楽
家でない私ができることはこれだけなんだあ。これ
だけなんだあ。

秦 万里子コーラスワークショップVol.3
～みんなで作ってハモっちゃおう！～

JCDA合唱の祭典2019
～第20回北とびあ合唱フェスティバル～
第3日 6月2日（日）10：00～11：30
北とびあ 飛鳥ホール

